

第7波における施設支援の取り組み



日時：令和4年12月15日（火）18時～19時30分
島根県主催：社会福祉施設等対象研修～グループホーム等編～
島根県高齢者福祉課

発表内容

1. 施設支援の経緯・目的
2. 発生施設の様子
3. 拡大を防ぎ早めに終息した施設の取組
4. 今後に向けて

施設支援の経緯

- 第7波では、高齢者施設等でクラスターが相次いで発生。必要な人に必要な医療を提供するため、軽症や無症状の入所者には、施設内で療養していただく場合や、療養期間終了を待たずに元の施設へ退院していただく必要あり。
- そこで、**保健所、感染管理支援チーム**（保健所と医療機関の感染制御の専門相談員からなる）、**DMAT**（災害派遣医療チーム）、**島根県臨床心理士・公認心理師協会、市町村、島根県社協**等と連携して支援を行った。



施設支援の目的

- 入所者の心身の健康や日常生活を守る
- 施設職員の心身の健康を守り、施設サービス業務の継続を支援する
- 新型コロナウイルス発生に伴い生じるあらゆる困り事に寄り添い、関係機関が連携して支援する

発生施設の様子

感染対策

- ・感染対策の必要物品（N95マスク、ガウン、フェイスシールド、手袋等）が十分でない施設が多かった。
- ・夜勤明けで陽性が判明するケースが多かった。夜勤者への感染対策の共有不足が背景か。
- ・施設の構造上、特にゾーニング等難しい場合があった。

体制

- ・管理者、施設長が感染すると指揮する人が不在となり、混乱する傾向にあった。
- ・職員の感染により人員の確保が大きな問題となった。（特に夜勤者）
- ・認知症対応型グループホームでは、外部からの応援が難しい場合があった。

連携

- ・グループホーム、サ高住、有料老人ホームでは、入所者それぞれにかかりつけ医がおられるため、発生時の連絡・相談等が大変な様子。
- ・医師によって、急変時等での判断が異なる事があるよう。いざという時混乱しないよう相談基準を数値示してもらおう等対応を工夫する施設もあった。例：SPO2〇〇%になったらかかりつけ医に相談し対応を協議等

メンタルヘルス

- ・「夜中目が覚めて明日をどう乗り切るか考えてしまう」等、話される場合があった。
- ・家族への説明、関係者との連絡・報告・相談、職員の勤務調整等あらゆる業務に追われる状況。入所者の急変や死亡が心の負担をさらに重くする傾向にあった。

コロナ終息後

- ・認知機能の低下、ADLの低下、心身の不調等、新型コロナによる健康二次被害が発生することも。
- ・健康二次被害への対応、停止していたデイサービスやショートステイの再開に追われる状況あり。日常生活に戻すことも大変なエネルギーを要す。

施設訪問時よくある感染対策 こんな状況ないですか？

重要!



- **サージカルマスクの上からN95マスクを付けている**
⇒N95マスクを使用する際は、顔に密着させて使用してください。
装着後は、呼気の漏れがないか意識しましょう。
- **休憩時間、レッドゾーンで、PPEを着たまま飲食している**
⇒レッドゾーンは汚染区域です。PPEも汚染されています。
マスクを外して飲食することで感染リスクが高まります。
飲食はグリーンゾーンでお願いします。
- **レッドゾーンでの活動後、脱衣の際、最初と最後、手指のアルコール消毒を行っている**
⇒脱ぐ時に、感染のリスクが高くなります。
1つ脱ぐ毎に、手指のアルコール消毒を行ってください。
- **レッドゾーンでの活動後、自分自身や空間にアルコール消毒を噴霧している**
⇒空気や環境表面への除染方法としては不十分であること、眼への付着や吸入による健康への影響のおそれがあることから推奨されていません。

長引くほどにあらゆる問題が起こりがち
入所者・職員の心身の健康、日常生活を守るためにも

早めに終息させることが大切

拡大を防ぎ早めに終息した施設の取組

ポイント

- (1) 基本的な感染対策を徹底している**
- (2) 法人・施設としての組織的な対応をしている**
- (3) 平時から準備をしている**

拡大を防ぎ早めに終息した施設の取組

(1) 基本的な感染対策の徹底

- PPE（感染症対策のために必要な防護具）
N95マスク、ガウン、フェイスシールド、手袋、
アルコール消毒など、感染対策に必要な物品が十分に準備されている。
- 防護具の使い方、着脱方法（特に脱衣）が適切。
- ゾーニング（区域で分割すること）を理解し、特にレッドゾーンでの対応が適切。



拡大を防ぎ早めに終息した施設の取組

(2) 法人・施設としての組織的な対応

- ・感染対策委員会を設置して、対応方針を協議している。
- ・感染者が発生した施設へ、法人内からの応援体制がある。
また、PPEやアルコール消毒等、必要物品の補充がされている。
- ・管理者、施設長は、感染状況の全体像を把握している。



【例】どの居室の、誰が、何日から発症し、何日までが療養期間の見込か。
職員の発生も同様に把握している。

- ・管理者、施設長等の組織のリーダーを支える補佐役が存在する。

【例】事務長、介護課長や看護課長が、組織のリーダーに寄り添い、
現場レベルに指示が行き渡るよう協力している。



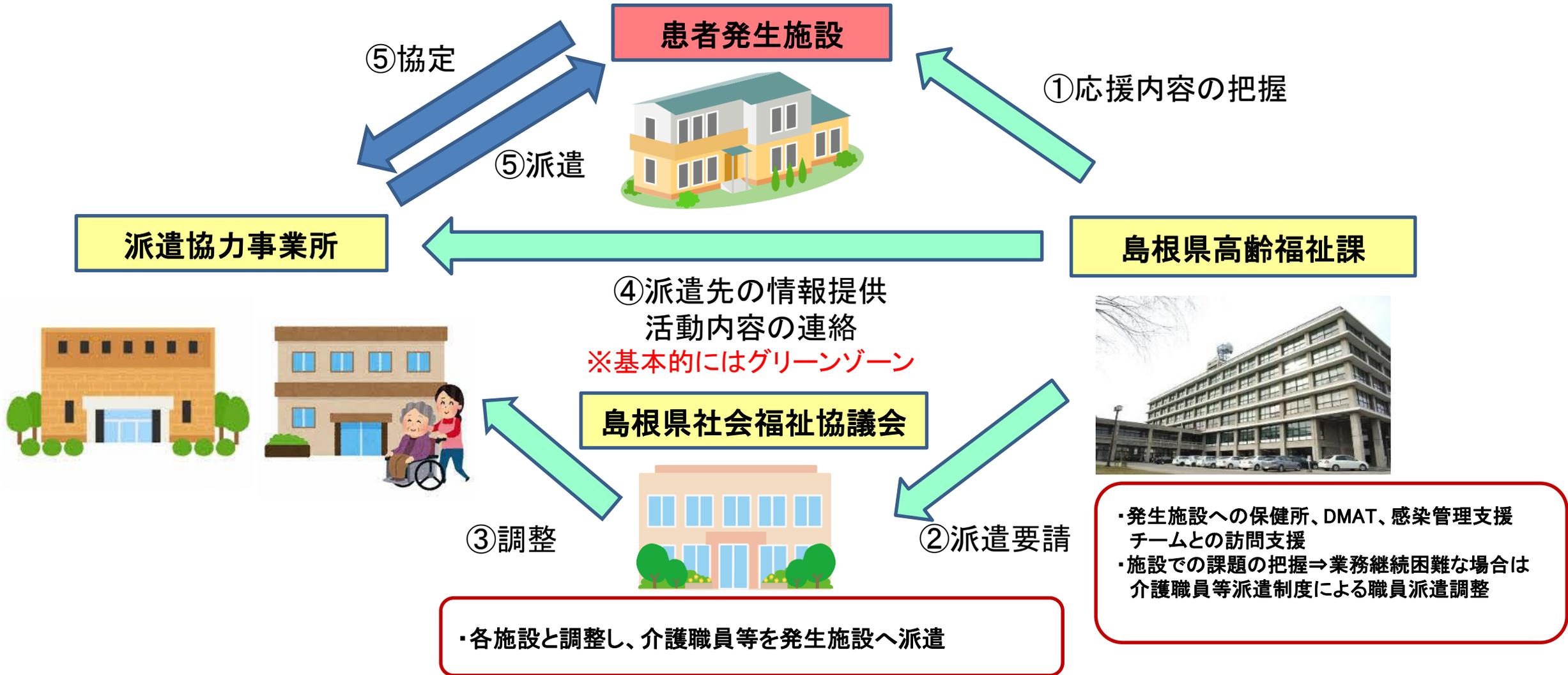
拡大を防ぎ早めに終息した施設の取組

(3) 平時からの準備

- ・ BCPを作成している。定期的に見直しをしている。
- ・ PPEを平時から備蓄している。
発生時、1日あたりどれくらい使用するかの試算を行い、
これ以上少なくなったら発注する等のボーダーラインを設けている。
- ・ 施設でのコロナ終息後、職員皆で、対応についての振り返りを行い、
BCPに反映させる。
- ・ いざという時に助け合うことができる関係づくりが
されている。



新型コロナウイルス感染症発生施設への職員派遣 ～介護職員等派遣調整のしくみ～



業務継続支援の事例

【概要】

- ・認知症対応型グループホームで、入所者・職員のほとんどが陽性となった。
- ・隣接するデイサービスを停止し、職員を派遣すること、外部からの応援を入れること等の助言や、そのためのゾーニングや感染対策指導等、DMAT・保健所・市町村・島根県社協等と連携して行った。
- ・その結果応援の調整ができた。

【キーワード】

認知症対応型グループホーム、 深刻な人手不足、 市町村・保健所・DMAT・県社協・県庁との連携

▶訪問・介護職等派遣調整

- ・施設内での発生当初から職員の陽性が続き、人員不足による業務の継続が困難な状況であった。現場リーダーも「パニックになっている」と話された。（実際には、対応されていた）
- ・外部からの応援について打診するも、認知症の入所者の対応は困難との事。（入所者にとって慣れた人がよい）また、外部から応援に来ていただいた人への感染が心配との事。
- ・市町村関係課と高齢者福祉課、またDMATと高齢者福祉課にて訪問し、業務継続の協議を重ねつつ、保健所は継続的に感染対策面からバックアップ。また外部応援者の感染の心配に対しては、応援初日に、保健所がPPE着脱等基本的な感染対策の支援を行うこととなった。
- ・その後、県社協、市町村関係課双方の働きかけにより、隣接する圏域より1事業所1名、また同市町村内からクラスター対応経験のある1事業所1名の派遣調整ができた。

今後に向けて

1. 職員一人一人・施設全体の感染対策の知識・技術の向上
2. 予防的な視点をもった対応
3. BCPの作成、活用、見直し
4. コロナ発生時でも、人員体制を確保し業務継続
5. 嘱託医・かかりつけ医との平時からの連携



參考資料

～参考資料～

(1) 介護現場における 感染対策の手引き (第2版)



(2) 介護職員のための 感染対策マニュアル



(3) 新型コロナウイルス感染症の 発生に備えたチェックリスト (R4.10現在)



← 「施設系」
「通所系」
「訪問系」
それぞれあり

写真が多く
わかりやすい

personal protective equipment : PPE

PPEの種類

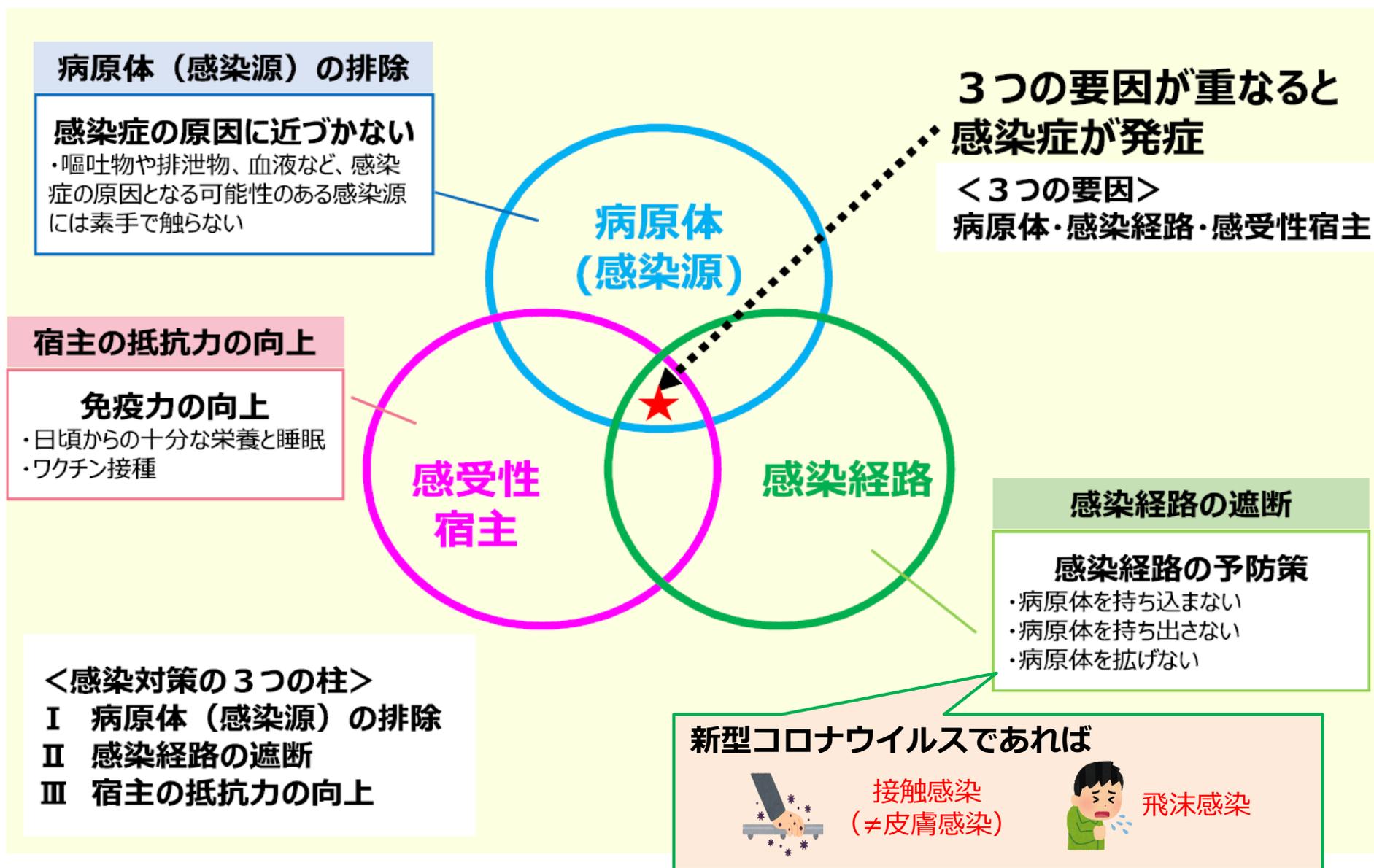


状況に応じて、適切に選択し、組み合わせて使用します。



3

PPEにより感染経路を遮断する



新型コロナウイルスの感染経路として、 飛沫感染のほか、**接触感染**に注意が必要です！

人は、“無意識に”顔を触っています！

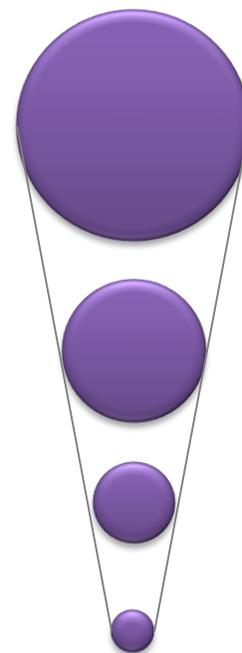


そのうち、目、鼻、口などの**粘膜**は、
約**44パーセント**を占めています！

(参考文献)

Yen Lee Angela Kwok, Jan Galton, Mary-Louise McLaws. Face touching: A frequent habit that has implications for hand hygiene. Am J Infect Control. 2015 Feb 1; 43(2):112-114
(<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7115329/>)

水と石けんによる手洗いで、
殆どのウイルスを減らせます



手洗いの効果
(イメージ図)

①手洗いなし

▼ 1/100
②流水で15秒すぎ

▼ 1/10000
③石けんで10秒もみ
洗い後、流水で15秒
すぎ

▼ 1/1000000
④③を2セット

(参考文献) 森功次他：感染症学雑誌.80:496-500(2006)

PPE着脱手順

着ける時と外す時では順番は異なります。



着け方

ポイント 入室前に着用すること。

着け方の順序 ▶ ガウン・エプロン ⇒ マスク ⇒ ゴーグル・フェイスシールド ⇒ 手袋

1 ガウン・エプロン

最初に手指衛生を行います。

- ガウン
ひざから首、腕から手首、背部までしっかりガウンで覆い、首と腰のひもを結ぶ。
- エプロン
首の部分を持って膝にかぶる。履ひもをゆっくり広げて後ろで結ぶ。患者と接する部分に触れないで裾を広げる。

2 サージカルマスク・N95 マスク

- サージカルマスク
① 鼻あて部を小鼻にフィットさせ、ブリーツをひろげます。
② 鼻あて部を小鼻にフィットさせます。はなは全体を覆うようにします。
③ マスクのブリーツを伸ばして、口と鼻をしっかりと覆います。
④ 装着完了。
- N95 マスク
マスクを上下に広げ、鼻とあごを覆い、ゴムバンドで頭頂部と後頸部を固定。ユーザーシールドチェック(フィットチェック)を行う。 ※詳細は25ページ参照

3 ゴーグル・フェイスシールド

顔・眼をしっかりと覆うよう装着する。

- ゴーグル
- フェイスシールド

4 手袋

- 手袋
手首が露出ないようにガウンの袖口まで覆う。

✗ 手首が露出している

脱衣がポイント
汚染したものを
感染予防しながら
脱ぐ！



1種類外す毎に
手指の
アルコール消毒を！

外し方

ポイント N95 マスク以外のPPEは病室を出る前か前室で外す。

外し方の順序 ▶ 手袋 ⇒ ゴーグル・フェイスシールド ⇒ ガウン・エプロン ⇒ マスク

1 手袋

外側をつまんで片側の手袋を中表にして外し、まだ手袋を着用している手で外した手袋を持っておく。手袋を握いだ手の指先を、もう一方の手首と手袋の間に滑り込ませ、そのまま引き上げるようにして脱ぐ。2枚の手袋をひとかたまりとなった状態でそのまま廃棄する。

ここで手指衛生。

2 ゴーグル・フェイスシールド

外側表面は汚染しているため、ゴムひもやフレーム部分をつまんで外し、そのまま廃棄、もしくは所定の場所に置く。

- ゴーグル
- フェイスシールド

3 ガウン・エプロン

- ガウン
ひもを外し、ガウンの外側には触れないようにして首や肩の内側から手を入れ、中表にして脱ぐ。小さく丸めて廃棄する。
- エプロン
首の後ろにあるミシン目を引き、履ひもの高さまで外側を中にして折り込む。左右の裾を履ひもの高さまで持ち上げ、外側を中にして折り込む。後ろの履ひもを切り、小さくまとめて廃棄する。

4 サージカルマスク・N95 マスク

- サージカルマスク・N95 マスク
ゴムひもをつまんで外し、マスクの表面には触れずに廃棄する。

最後にもう一度手指衛生を行います。

制作：職業感染制御研究会
 ※参考文献 <http://www.cdc.gov/ncidod/sars/pdf/ppeposter148.pdf>
 ※本ページは下記の職業感染研究会 Web サイトよりポスター用としてダウンロードが可能です。
<http://jgocp.umin.ac.jp/>

ゾーニングとは 区域 (Zone) で分割すること

- レッドゾーン: 患者・感染者が行動する汚染区域
 - イエローゾーン: 汚染された防護衣を脱ぐ、レッドゾーンからの汚染物を清潔な袋や容器に入れる緩衝区域
 - グリーンゾーン: 清潔な区域
- ▶ かんたんな覚え方
- ・レッドは陽性者が行動する場所
 - ・イエローは脱ぐ場所

ゾーニングの一例

- 1 陽性者が行動する範囲と、その移動経路（動線）を設定する。
- 2 陽性者が、支援者の区域に迷い込まないようにテープやコーンで表示する。
- 3 陽性者と支援者は、使用する玄関やエレベーターを分ける。

立入禁止の表示



テープの表示



使用する入口の区分け

